

2019年5月19日(日) IIヨハネ1-13 西田浩子牧師

アウグスティヌスは、神と魂を知り認識するための前提に、真理を把握し、認識しなければならないと言っている。彼によると至福への探求の動機には二つあり、一つは「至福の知、神と魂の知識を知る魂は不死」であることを証明せんとするものである。もう一つが「『神』と『魂』を知ること」である。それは確実に絶対的であり私たちはその真理を知る必要があるのである。

ヨハネ福音書、ヨハネの手紙は「愛」という言葉にあふれているが、それはイエス・キリストが愛にあふれている方であることを示している。IIヨハネ1-4節には「真理」という言葉が繰り返されている(各節に一度ずつ計4回)。

ヨハネ14:6「イエスは言われた。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。」真理とは、いつでもどんな状況でも変わらないもの。それはまさにイエス・キリストのことである。

ヨハネ1:14「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。」イエス・キリストは真理そのものであり、この真理につながっていないところにおける真理の探究はむなしきものである。「真理」とある個所を「イエス・キリスト」に置き換えて読むとその意味がよくわかる。真理により神とキリストの恵みと憐れみと平和が与えられている。真理と自分自身が一致したものであるとか合一(同一)であるとみなす人がいるならばその人は傲慢で

ある。むしろ自分自身が真理と異質であることがわかる人こそが謙遜な人なのである。その人はキリストと霊的に人格性を持つという点で一致することを喜ぶのである。

親の愛は神の愛に一番近いと言えるが、親(人間)の愛は完全ではない。世の中の価値は相対的であるが、神の価値は絶対的である。神の絶対的愛によって平和を保つことである。神の平和とは何であろうか。御言葉から聞きたい。

ヨハネ 13:14「ところで、主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない。」

ヨハネ 13:34「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」

イエス・キリストが下さった新しい掟である「互いに愛すること」により平和を保つのである。どのように互いの足を洗い合うかというと、イエス・キリストがしてくださったように、である。弟子たちはイエス・キリストに足を洗われた故に、イエス・キリストとの関係が成り立った。私たちも同じように、他の弟子たち(キリストを信じる者たち)と足を洗い合うことである。

II ヨハネ 6 節「愛とは、御父の掟に従って歩むことであり、この掟とは、あなたがたが初めから聞いていたように、愛に歩むことです。」掟により、キリストが私を愛し十字架にかけられたことを示し、さらに誰かの足を洗うことを教えている。キリストが本質的に「愛しなさい」、「足を洗いなさい」と言われている。足を洗うことを通し、キリストの十字架の痛

みが何のためであったかがわかるのである。私たちの痛みを負って十字架で苦しんでくださったイエス・キリストの十字架に私たちを招き、また私たちのイエス・キリストの愛を信じる信仰がどれくらい成長しているかを知らしめるのである。

聖書はどこを開いても愛があふれている。神様のまっすぐさを示し、同時に人間の本質、罪の大きさを示し、その人間の罪を、キリストが十字架で負ってくださったことを示す。怒りではなく、神が私たちを愛してくださっていることを語る「神の物語」である聖書。それは「愛」であり、罪とは対極のところにある。

II ヨハネ 7 節「このように書くのは、人を惑わす者が大勢世に出て来たからです。彼らは、イエス・キリストが肉となって来られたことを公に言い表そうとしません。こういう者は人を惑わす者、反キリストです。」神の国を脅かす人を惑わす者とはどのような者であろうか。それは、キリストを神であると言い表さない、偽物のことである。

II コリ 11:4 「なぜなら、あなたがたは、だれかがやって来てわたしたちが宣べ伝えたのは異なったイエスを宣べ伝えても、あるいは、自分たちが受けたことのない違った霊や、受け入れたことのない違った福音を受けることになっても、よく我慢しているからです。」

神であるキリストが人となられたことは真実である。それによって私たちは永遠の命を与えられたのである。

II ヨハネ 9 節「だれであろうと、キリストの教えを越えて、これにとどまらない者は、神に結ばれていません。その教えにとどまっている人にこそ、御父も御子もおられます。」キ

リストの教えを越える者とは、行き過ぎている者、平和を越えてしまう者である。II ヨハネには前半に「愛」について記される反面、後半は「家に入れてはなりません。挨拶してもなりません。(10 節)」と、愛と相反するような内容が記されているが、それは何故であろうか。「家」とはすなわち「教会」のことである。間違った教えを受け入れて振り回されることなく、ひたすら、同じ思いを抱いて「わたしたちの喜びが満ちあふれるように(12 節)」し、共に生き神と人に仕えることをヨハネの手紙 II は私たちに勧め教えているのである。